

令和6年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」成果報告書

1 指定校・指定校群 (丸亀市立飯山北小学校)

2 実施の内容

(1) 支援体制

KSR担当教員が中心となって学級担任や管理職、SCと情報交換を行いながら支援を行った。KSR担当教員が毎日児童の1日の活動の様子を記録したファイルを管理職、学級担任に回覧し児童の言動を共有することで、児童の気持ちの変化を汲み取ったり、関わり方の手掛かりにしたりしている。また、校内でケース会議を開催し、児童に合った支援方法を検討している。

(2) 環境整備

教室については、玄関とは別の出入り口から他の児童と会わずに登下校できる場所を準備した。登校した際は、カレンダーに児童の好みのシールやハンコでしるしをつけている。また、教室はリラックスできる場として、パーテーションで隔てた場所にソファを設置している。さらに児童が選択できるように、個別学習が行えるパーテーションで区切られた座席と集団で活動できる開かれた空間を整備した。

(3) 学習支援

KSRでは、自主性を重んじるため1日の学習スケジュールは原則本人が決めるようにルール付けをしている。教室での授業にも可能な限り参加できるように教室とKSRをmeetで結び、オンラインで授業参加できる環境を整えている。

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

学年	児童	児童の様子
3年	A児	10月から登校渋りが見られ、11月からKSRに来室するようになった。ほぼ毎日来室し、給食までKSRで過ごした後下校することが多い。12月からは教室に入ることも増え、教室復帰に向けた取り組みが行われている。
4年	B児	6月頃から登校渋りが見られ、KSRに来室するようになった。9月まではほぼ毎日来室していたが、10月頃から来室回数が減っている。 11月からは車の中で給食を食べて帰宅するという流れが続いている。
5年	C児	5月から登校渋りが見られ、KSRに来室するようになった。運動会に向けた練習などをKSRで行うことで段々と教室に行く気持ちが芽生え、6月に教室復帰を果たした。
6年	D児	4年生の時から登校渋りが見られ、5年生から別室を利用している。給食前に登校することが多いが教室に行けることもある。また、運動会や修学旅行などの行事には参加できている。
	E児	5年生から別室を利用しており、6年の4月中旬から学校に来ることが難しくなった。本人・保護者の中で現在、目標を「卒業式に出ること」としており、それに向けて月1回程度KSRに来室している。また、遠足や修学旅行はクラスに入って参加できた。
	F児	場面緘黙があり、週2日ほどKSRに来室している。1学期はKSRで寝ていることが多かったが、2学期に入り自分から進んで勉強を行うなど中学校に向けての意欲が見られている。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

KSRの共有スペースにホワイトボードを設置し、個別に1日の見通しを持って生活できるように時間割をボードに貼る取り組みを行った。また、児童の希望をKSR担当が聞き、担任や専科教員が空きコマを利用して個別指導を行い、児童の学びたいという要求に応えた。



衝立で仕切った個別の学習スペースを用意している。



共有スペースでは、友達と学習することができる。



休憩スペースでは、自分のタイミングで一息つける。



個別に1日の見通しをもち、教室に行ったり、リモート授業を受けたりしている。



児童の希望を聞き、個別指導も調整して行っている。



お楽しみ会を計画し、参加できることを増やしている。

(3) 総括

昨年度も別室登校を行っている児童はいたが、空き時間の教員や管理職が対応しており、情報共有などの課題があった。今年度からKSRを設置して、専属の教員を配置したことで、KSRに通っている児童や保護者に安心感を与えることができ、登校時のストレスなどが少なくなったと感じる。また、複数人で活動できるスペースを作ったことで児童同士のつながりを深めることができ、登校意欲を高めることに繋がった。

学習環境に関しては、今年度から教室近くにルーターを設置したことでオンラインでの学習が可能になり、自習だけではなく様々な学習方法を選択することができるようになった。その為、長時間学校に滞在しても状況に応じて様々な課題や学習方法を選択することができ、学校での潜在時間を延ばすことができた。

今年度教室復帰を果たしたのは1名であったが、今後も継続して支援を行うことで教室復帰が見えてくる児童がいるため、次年度も引き続きKSRを活用した支援を行い、教室復帰を目指していきたいと考える。また、教室と家との間にKSRがあることで、教室には行けないがKSRなら登校できると考える児童の受け皿となっている。次年度も様々な悩みを抱えている児童の個別の支援が行える場として、KSRを運用・活用していきたい。